陣内俊　Prayer Letter

Designed by CORKSCREW DESING WORKS /2008/All Rights Reserved

2019 年 4-6 月号
Vol.46

支援者の皆様へ

支援者の皆様、こんにちは。いつもお祈りと尊いご支援を感謝いたします。

今年 4 月の大半を私はインドで過ごしましたが、出発の数日前に桜咲く近所の公園で「未就学児がいれば無料」という区営のボートに乗りました（写真左・義理の母が撮影）。成田から出かける日には妻と娘が送り出す祈りをしてくれ、インドで過ごした 3 週間、ほぼ毎日オンライン通話で妻と娘と話し、祈り合いました。2008 年、30 歳だった私が初めてインドに行ったときは独身でしたが、今回は日本にいる家族と「一緒に行っている」という不思議な感覚が常にありました。

「早く行きたいなら一人で、遠くまで行きたいなら一緒に行きなさい」というアフリカの諺を、7 年前の結婚式のウェルカムボードに記しましたが、その言葉が現実のものとして強く感じられました。このレターを読んで祈ってくださる支援者の皆様もまた、働きの同労者（パートナー）です。皆様が祈ってくださっているという事実が、いろんな場面で心を強め、勇気を与えてくれています。主の許される限り、これからも皆様と共に主の働きを担える特権を喜びつつ、使命を果たし続けて行きたいと願っていますので、お祈りいただけますと幸いです。

インド渡航報告

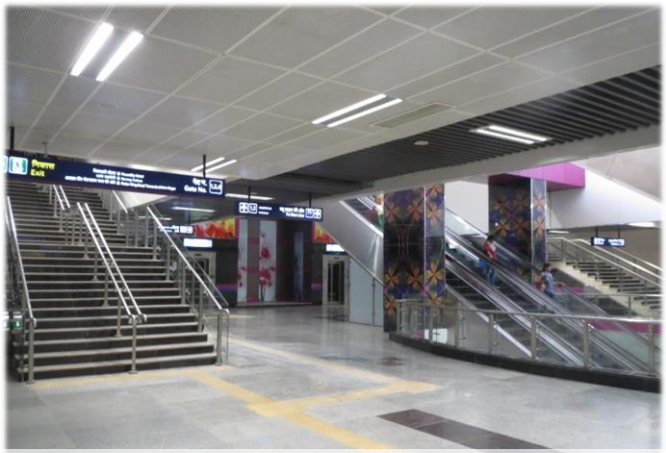
4 月 10～29 日にインドに渡航しました。2008 年、プレヤーレターの第 1 号(vol.1)はインドからお送りしましたが、vol.46 の今回、ふたたびインドの報告ができますことを嬉しく思います。

1．インド社会の変化と二つの格差：

11 年の間に起きたインド社会の変化は目覚ましく、「リープフロッグ型発展」と呼ばれる現象により、シェアリングエコノミーやキャッシュレス化など、ある部分では日本よりも先に進んでいます。この急激な変化が、ふたつの「格差」をもたらしています。ひとつは**「経済格差」**です。標準的な日本人と同等かそれ以上の生活をする人々が増えた一方、過去 10 年間、まったく生活が変わらない最貧困層も存在するため、彼らの「相対的貧困」の度合いは深まっています。

もう一つは**「未来格差」**と呼べるような格差です。インドにおける「親子の文化差」は、日本ならば孫と祖父母ほども離れています。親世代（現在の 30～40 代）はくみ取り式トイレで育ち、多くは固定電話すらありませんでした（電話線が盗まれるため）。子世代（現在の 10 代）は地下鉄、水洗式トイレはもとより、物心ついたときからスマホをいじり、シェアリングエコノミーに適応しています。世代間の感覚の違いから来る分断や無理解は日本よりもはるかに深刻です。

【地上】ゴミを分別しながら人々が生活するスラム街



【地下】広く清潔で便利で快適なデリーの地下鉄内部

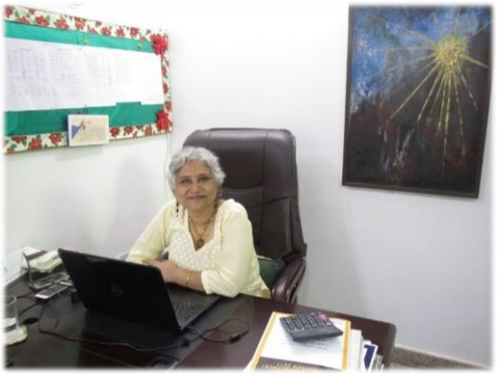
2．11 年ぶりに再会した「神の国の同労者たち」

2008 年に 4 ヶ月を過ごしたインドで、「包括的宣教」を啓発し実践する人々から学ばせていただきました。「長い歴史を持つ非欧米圏の社会」という文脈をインドと日本は共有していることもあり、私はインドの仲間たちに特に強い友情意識を持つようになりました。その後 10 年間、日本で FVI の活動をしながら、海の向こうで同じような格闘・苦闘をしている彼らという「仲間」の存在に励まされてきました。今回の滞在で、当時出会ったほとんどの友人たちと再会を果たすことができました。最も嬉しかったのは、働きの形式は変わっている人もいながら、彼らのすべてが当時語っていた**「包括的な神の国の働き」**に今も情熱を傾け神の為に人生を捧げていたことです。それだけでなく、彼らもまた日本で苦闘している私のことを「仲間」と思い、この 11 年、祈り続けていてくれたことも知りました。

西洋から入ってきたキリスト教が非キリスト教社会に浸透していく際、西洋の文脈では盲点になる様々な分野があり、そこにも福音の光は照らされねばなりません。彼らはその前線で戦っています。ある人は障害者の尊厳の分野、ある人は芸術の分野、ある人は不可触民とそれを生み出す社会の差別構造、ある人はスラムの子どもたちやエイズ孤児、ある人は女性の権利、ある人は迫害された教会の励まし、ある人はインド全土に広がる教会開拓運動を「指導者育成」という観点から補完しています。「主要な教

団や海外からの宣教団体が優先的に取り組まない分野」を、包括的な福音の光で照らしていく働きを彼らは 11 年間忠実に続けてきました。

私もまた日本において包括的に神の国が広がっていくように、「福音の光が届かない分野」の隅々にまで光に照らされていくよう、啓発、実践を続けて行きたいと願います。



【インドのための祈りの課題】

先日、5 月 23 日にインドでは国政選挙の開票が行われ、ヒンズー原理主義の BJP が勝利しました。2014 年に政権についたモディ首相があと 5 年、国の舵取りをすることになります。この政権のもと、インドではキリスト教信仰を持つ人々は様々な側面で抑圧され迫害されていくことが予想され、海外からインドを支援している人々も国外に追放されつつあります。神が彼らの信仰を支え、ローマ帝国の迫害下でますます輝きを増した初代教会のように、彼らの働きを神が豊かに用い国を変革してくださるよう、どうぞお祈りください。

高校・大学など教育機関での奉仕の機会

去年に引き続き今年も、5 月 27 日に帝京科学大学・アニマルサイエンス学科の授業を担当させていただきました。獣医師でありながら NGO で働くという珍しい経歴だからこそ、次の世代の動物福祉を担う学生たちに価値ある情報を提供できているという手応えを感じています。6 月には関東学院高校の 1 年生の学年修養会にて講師を務めます。これまで主にキリスト教会に仕えながら、「在野の教育者」として社会に発信し続けてきましたが、この数年、公的な教育機関からも声をかけてもらい、奉仕の機会が広がりました。神の御心を分かりやすい言葉で伝えていくことができるようにお祈りください。

祈りの課題

◇純子、俊、かなえの健康が支えられ、家族で喜んで神に仕え続けられるように。
◇働きの機会が多数開かれてきているので、体力が支えられ、身体をケアーしながら、無理のないペースで働きに邁進できるように。働きを通して神の国が広がっていくように。
◇FVI、および「陣内俊を支える会」の経済的必要が支えられ、働きが継続していけるように。

2019 年 6 月以降の予定

月　日	内　容	場所、補足
6 月 17～20 日	関東学院高校 1 年生修養会の講師	山梨県・西湖の研修施設
6 月 22 日	新潟グレースネットチャペル・包括的宣教実践支援	新潟市
6 月 23 日～7 月 2 日	フィリピン滞在（Global Workplace Forum 参加等）	マニラ（フィリピン）
7 月 14 日	礼拝と包括的宣教のワークショップ	戸田福音自由教会（戸田市）
7 月 16～17 日	モウモウプロジェクト視察 （福島原発避難勧告地域の放置牛ケアー）	福島県大熊町
9 月 4 日	万座温泉ホテル・チャペルタイムでメッセージ	万座温泉ホテル日進館（群馬県）
9 月 29 日	日本同盟教団多摩教会の礼拝で奉仕・包括的宣教セミナー	東京都府中市
11 月 22～23 日	よにでしセミナー第三期	淡路島（予定）
随時継続的に	包括宣教の各種活動	国内各地

＊上記は現在までで分かっている暫定的な範囲の予定です。

連　絡　先

〒202-0014 東京都西東京市富士町 4-4-15-402
陣内への Email　shun@karashi.net　　無料メルマガ、YouTube 放送、ブログなど→「陣内俊」で検索

支援のための献金方法

私の活動は、支援者の皆様の善意の支援献金によって支えられています。経済的支援をもってご協力くださる方は、お手数ですが以下のいずれかの方法で口座にお振込ください。ご支援を心より感謝いたします。

■ゆうちょ銀行口座番号　12110-91889141 名義：「陣内俊を支える会」
■他行からの振込　店名（店番）：〇八九（ゼロハチキュウ）（089）預金種目：当座
口座番号：0142825　「陣内俊を支える会」
■郵貯振替口座番号　00830-1-142825　名義：「陣内俊を支える会」
（同封の振込用紙がご利用いただけます。）

＊振込用紙をご入り用の方、ゆうちょ口座からの自動引き落としを利用されたい方はお知らせください。
＊振込用紙（赤色・手数料当方負担）を同封いたしますが、**振込用紙は決してご支援を催促するものではありません。**お振込くださるときにご利用ください。（毎月ご利用の方のために複数枚同封しています。）
＊Prayer Letter の購読、自動引き落としを停止されたい方、またはお届け先の住所に変更がある方は、お手数ですが、上記連絡先のいずれかにご連絡ください。